

Title	ベンチャー企業 (VB) とベンチャーキャピタル (VC) を取り巻くコンフリクトに関する考察
Sub Title	
Author	金慧東 奥村昭博
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1999
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1999年度経営学 第1502号 不可
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001999-1502

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

所属ゼミ	奥村 研究会	学籍番号	89828326	氏名	金 慧 東
<p>(論文題名)</p> <p style="text-align: center;">ベンチャー企業 (VB) とベンチャーキャピタル (VC) を取り巻くコンフリクトに関する考察</p>					
<p>(内容の要旨)</p> <p>今日の日本は、バブル経済後の大企業の成長に陰りが見えたことから、経済の成熟に伴う低成長期の時代に入っている。日本経済は、産業空洞化や高齢化社会を迎えて新しい成長性のある力が切実に必要な時期にあるといえる。そして、VBとVCが主な軸をなすVB産業は、この低成長期の日本経済の立て直しを可能にする唯一の希望とさえ言われている。しかし、VBとVCはお互いが必要としている存在にも関わらず、VC側リスクマネーの供給目的である、高い利益の実現のためにする様々な努力が、VB側との間に多くのコンフリクトを生んでいることも事実である。</p> <p>その対立関係を解決し、今後VBを発展させるためにも現状の事実解明と打開策を探ることが必要となる。</p> <p>本研究ではこのコンフリクト問題を、インタビューや文献研究、文献情報などにより、明らかにする試みをした。まず、VBとVCの現状を分析し、これらコンフリクトを説くためのフレームを理論的に考えることにより、VBとVCが対立する部分は情報の非対称性による互いの理解の違い等が原因であると仮定した。そして、インタビューや文献情報により、その検証を試みた。</p> <p>その検証による結論として、VCとVBの間にあるコンフリクトを解決するために必要なのは、VBの正確な情報開示を前提に、VC側のVB情報に対する理解度やVB経営の様々な部分において外部の専門家として、VBを支援するVCのあり方こそが、今後のVB発展の必要条件であることを主張した。そして、VC側のVBへの歩み寄りこそがすべてのコンフリクトをとく鍵であることを提案した。</p>					